


- 3 . 政策決定に関わる未来研究手法の研究 (フォーサイトの政策へのインパクトに関する調査研究)

Study on Impact of Foresight Activities on Policy-making

 キーワード	フォーサイト、評価、インパクト、政策決定
Key Word	Foresight, evaluation, impact, policy-making

1. 調査の目的

本調査研究においては、フォーサイト活動の参加者の有する、フォーサイトの結果が政策立案に与えるインパクトに関するパーセプション(認識)に焦点を当てる。1995年から2007年の間に実施された、フォーサイトのパネル会合、ワークショップ、デルファイ調査の回答者などの参加者にインタビューとアンケート調査を実施する。この調査研究には3つの目的がある。第1に、過去10年間にフォーサイトに参加した科学者と技術者の、フォーサイトのインパクトについての見解を知ることである。第2に、回答者の特質と、彼らのインパクトについての認識との間にどのような関係があるかどうかを分析する。第3に、フォーサイトの直接の参加者として、彼らはフォーサイトの結果の質と量を増加させるための良い提案を持っているはずであり、その質的な情報を収集する。

2. 調査の概要

(1) 方法

科学者と技術者のフォーサイトのインパクトについてのパーセプションを計測した。日本における主要なフォーサイト活動である、第6回デルファイ調査(1996年)、第7回デルファイ調査(2001年)、第8回デルファイ調査(2005年)、「2025年に目指すべき社会の姿」(2006~2007年)、日本学術会議によるフォーサイト(2006~2007年)である。第1に、これらのフォーサイトのパネル会合や運営委員会の主要なメンバーに対してインタビューを実施し、彼らのこれらのフォーサイトのインパクトの大きさについての認識を尋ね、関連する質問をした。次に、インターネット上でのアンケート調査を、参加者を対象に実施した。まず結果を要約した後、統計モデルを使って分析した。

(2) 結果

インタビュー調査においては、デルファイ調査の参加者の大部分は、調査の政策へのインパクトはあまり大きくはないと考えている。また、大部分の人は、政策決定のために調査の結果が利用されないのは政府に原因があると考えていた。一般的な方向性は示すものの、政策立案のための具体的な提案や方法を提示することのないデルファイ調査の方法に問題があると考えている人もいた。他方で、イノベーション25に関するフォーサイトの参加者は、結果はイノベーション25の検討に使われたと考えている。

アンケート調査の結果によれば、全般的なインパクトの大きさは、あまり高いとは認識されていない。例えば、40%以上の第6回デルファイ調査に参加した回答者は、レベルは「やや低い」「低い」であり、45%の回答者は「どちらとも言えない」と回答している。11%だけの回答者が、レベルは、「やや強い」「強い」と回答している。さらに、インパクトのレベルは約80%の回答者にとって十分ではないと認識されている。また、回答者は、低いレベルのインパクトは、政府が政策にインパクトを与える努力が十分でないことと、一般人の間におけるデルファイ調査の結果に対する関心が低いことに原因があると考えている。50~60%の回答者がこれらの理由を選択した。原因が、フォーサイト自身の質にあると考えている回答者は比較的少数である。

また、インパクトの大きさについてのパーセプションへの、回答者の様々な特質の影響を分析した。アンケート調査において、インパクトを評価するために5つの回答カテゴリーがあるため(弱い、やや弱い、

どちらとも言えない、やや強い、強い)、順序カテゴリーを用いたロジスティック回帰分析(logistic regression with ordered category)を実施した。

(3) 主な成果

この調査研究には、4つの主要なファインディングがある。

第1に、5つのフォーサイトの参加者へのインタビューの結果とアンケート調査の結果によって、日本のフォーサイトの参加者間ではその政策立案へのインパクトの大きさが低いレベルにあるとの認識が強いことを見つけた。さらに、大部分の人は、現在のインパクトの大きさが十分であるとは考えていない。このファインディングは、この分野における先行研究が日本のフォーサイトについて説明してきたこととはかなり異なっている。

第2に、年齢、職業(所属機関)、メンバーかどうか、科学技術分野によって、政策立案へのフォーサイトのインパクトのサイズについての認識が異なっている。若い参加者はより不満を持っており、優先分野の科学技術分野の参加者はより大きなインパクトを認識している。フォーサイトの運営委員会などのメンバーはより大きなインパクトを期待しており、満足度が低くなっている。民間企業の参加者はより大きなインパクトを認識している。この背景としては、民間企業の参加者は、大学教員とは異なるインパクトのレベルへの期待値を持っていることが考えられる。

第3に、年齢などによって、低いレベルのインパクトの原因についての認識が異なっていることが分かった。異なるバックグラウンドの参加者は、原因について異なる見方をしている。最近のフォーサイト(非デルファイ型フォーサイト)の参加者は、方法に問題があるとの認識が強かった。ITや製造分野の参加者は、民間企業における関心の低さがインパクトの低さの原因であると考え、認識が強かった。これは、これらの分野における企業との関係の強さの結果である可能性がある。

第4に、フォーサイトのインパクトの大きさ、特にインパクトの大きさのパーセプションを、参加した科学者や技術者の声や意見を使って、比較することを可能にする方法を提案した。この調査研究は、データを統計的に分析し、異なるフォーサイトを比較したおそらく初めての試みである。

(4) 政策的インプリケーション

主要な政策的インプリケーションは、日本のフォーサイトの参加者間で政策へのインパクトの大きさは低いと認識されており、大部分の参加者は、インパクトのレベルが十分ではないと考えている。そして、政府がインパクトを増やすためにより多くのことをすべきであると考えていることである。参加者によってアンケートへの自由回答として提案された様々な方策を検討するのは価値があることであろう。

もう一つの政策インプリケーションは、インパクトは、フォーサイトの参加者間で異なって認識されていることである。もし、フォーサイトのインパクトを議論する必要があるのであれば、様々な組織、科学技術分野、メンバーグループ、年齢の参加者からの意見を集めることが是非とも必要である。

最後に、結果がどのように利用されているかに関する情報を参加者に対してフィードバックすることが必要だろう。科学者や技術者は、彼らが政策立案においてどのような違いを生み出すことができたかを知りたいと思っている。より多くのフィードバック情報は、参加者の関与を改善し、フォーサイトの質の向上に効果があるだろう。

なお、本調査研究は、平成19年度の財団法人新技術振興渡辺記念会の研究助成によって行われたものである。